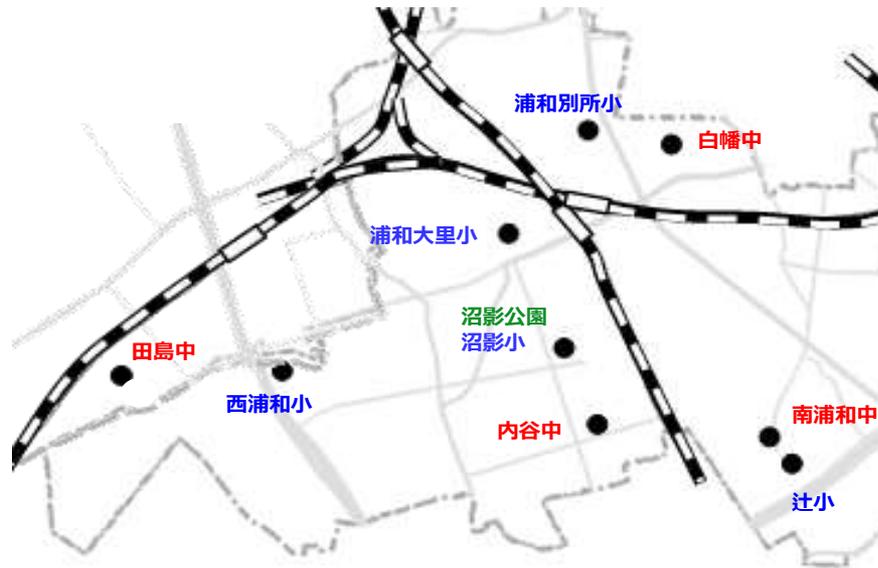




武蔵浦和駅周辺地区 義務教育学校の設置について



武蔵浦和駅周辺地区

- 武蔵浦和駅から概ね2 km圏内
- 内谷中学校区と関連がある小・中学校

小学校：5校
中学校：4校

【令和5年5月】



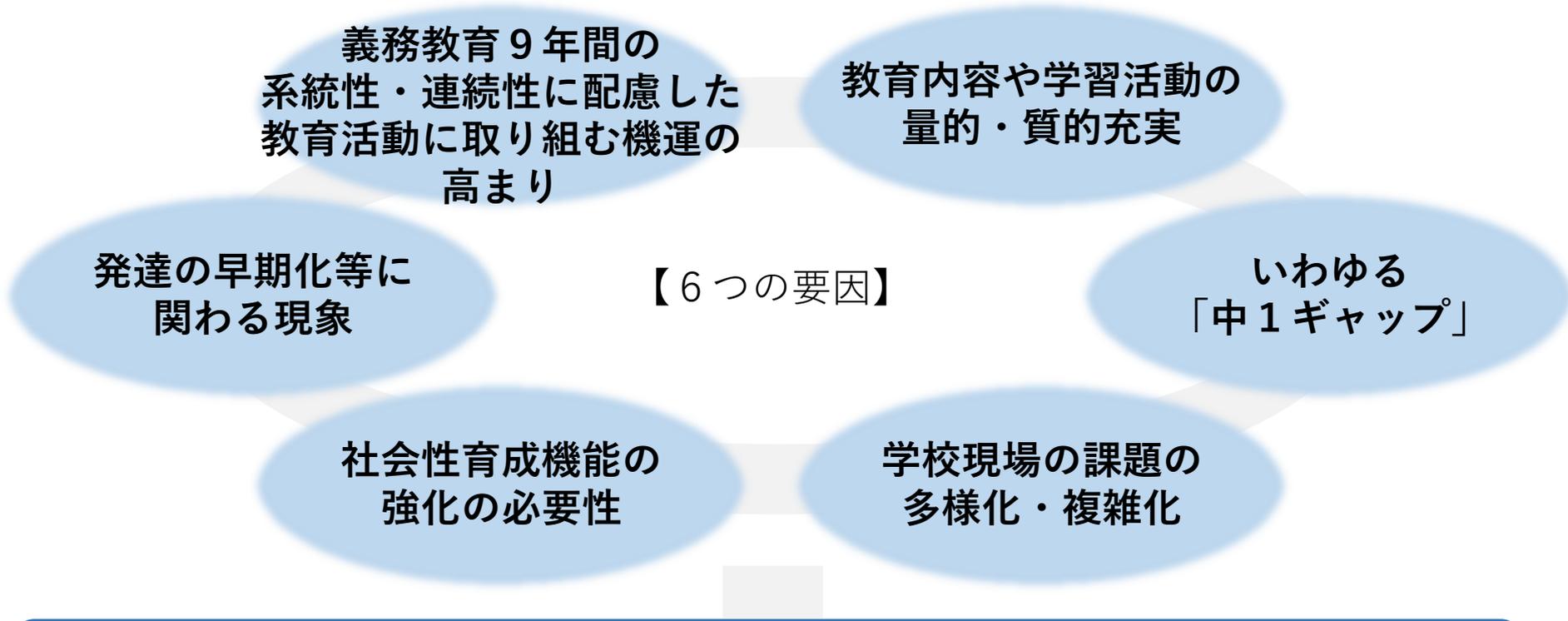
本日の流れ

- 1 **義務教育学校ってどんなもの？** 「義務教育学校制度について」
- 2 **武蔵浦和の学校事情** 「武蔵浦和駅周辺地区が抱える課題について」
- 3 **未来の武蔵浦和の子どもたちの教育**
「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の設置について」
- 4 **現時点の学区案・運用** 「通学区域について」
- 5 **新しい学び舎の開校へ向けて！** 「整備スケジュールと代替プールについて」
- 6 **沼影校舎が目指す方向性（イメージ）** 「新しい施設及び展開される教育活動について」



1. 義務教育学校ってどんなもの？ 「義務教育学校制度について」

(1) 義務教育学校制度化の背景・理由



小学校と中学校が別々の学校制度として設計されていることによる様々な限界を超えて、
小中一貫教育の取組を一層高度化させるため、正式な学校制度として法制化

「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が施行

(平成28年4月1日)



1. 義務教育学校ってどんなもの？ 「義務教育学校制度について」

(2) 義務教育学校制度の特徴

校種	既存の学校種		義務教育学校																													
	小学校	中学校																														
学年 編制	<table border="1"> <tr> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> </tr> </table>	1年	2年	3年	4年	5年	6年	<table border="1"> <tr> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> </tr> </table>	1年	2年	3年	<table border="1"> <tr> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> <td>7年</td> <td>8年</td> <td>9年</td> </tr> <tr> <td colspan="6">前期課程</td> <td colspan="3">後期課程</td> </tr> </table>			1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	前期課程						後期課程		
1年	2年	3年	4年	5年	6年																											
1年	2年	3年																														
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年																								
前期課程						後期課程																										
組織	校長 教職員		校長 教職員																													
	小学校、中学校で別組織		義務教育学校で1つの組織																													
教育 目標	6年間の教育目標		3年間の教育目標																													
	小学校、中学校で別の目標		義務教育学校で1つの目標																													
教育 活動	小学校及び中学校学習指導要領に基づく教育活動																															



1. 義務教育学校ってどんなもの？ 「義務教育学校制度について」

(3) 義務教育学校制度のメリット

小・中学校9年間の連続した学校による「指導体制」の充実

- 一人の校長のマネジメントによる**9年間を一体化した学校運営体制**の構築
- 総括担当の副校長又は教頭の配置や、学校事務職員等の**複数配置による指導体制**の充実
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の**専門スタッフの有効な活用**
による**教育相談体制**の充実

異学年交流による「豊かな人間性」の育成

- 多様な異学年交流による児童生徒の**社会性やコミュニケーション能力**の育成
- 給食や清掃などの日常的な活動を一緒に行うことによる**精神的な発達、社会性**の育成

特色ある教育の推進による「個別最適な学び」の充実

- 前期課程（小学校段階）での教科担任制の導入による**専門的な指導**の充実
- 小・中学校教員が協力して**チームティーチング**を行うことによる**きめ細かな指導**の充実
- 小・中学校9年間の**系統性・連続性に配慮した教育活動**の展開



1. 義務教育学校ってどんなもの？ 「義務教育学校制度について」

(4) 義務教育学校における教育活動の実際

豊かな人間性をはぐくむ日常的な異学年交流



〈7～9年生の吹奏楽部による「ミニコンサート」〉

出典：文部科学省ホームページ
(https://www.mext.go.jp/content/20210419-mxt_sisetuki-000014104_6.pdf)

〈ロボットを用いたプログラミング学習〉

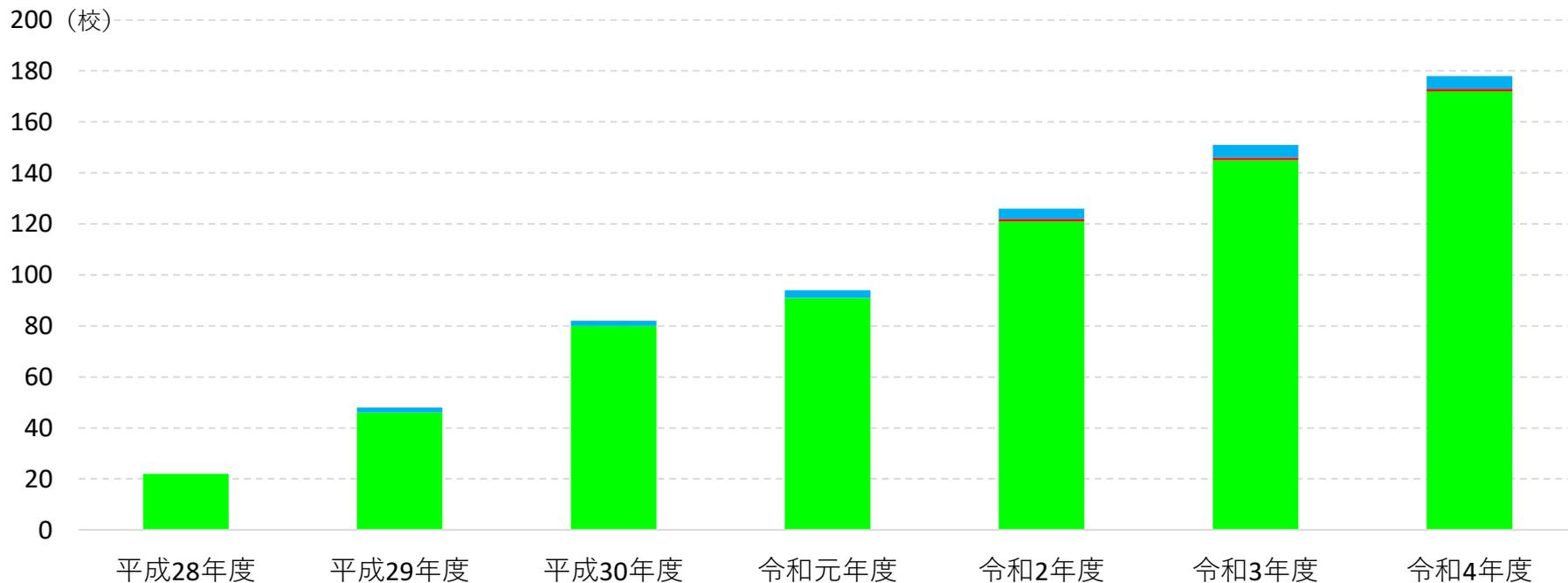
出典：文部科学省ホームページ (https://www.mext.go.jp/content/20210419-mxt_sisetuki-000014104_6.pdf)



1. 義務教育学校ってどんなもの？ 「義務教育学校制度について」

(5) 全国の義務教育学校設置数の推移 (令和4年度文部科学省学校基本調査より)

義務教育学校の設置数は年々増加



■ 国立	—	2	2	3	4	5	5	(校)
■ 私立	—	—	—	—	1	1	1	
■ 公立	22	46	80	91	121	145	172	
計	22	48	82	94	126	151	178	7



2. 武蔵浦和の学校事情 「武蔵浦和駅周辺地区が抱える課題について」

(1) 武蔵浦和駅周辺地区小・中学校の現状



沼影小学校
～ 休み時間の様子 ～





2. 武蔵浦和の学校事情 「武蔵浦和駅周辺地区が抱える課題について」

(1) 武蔵浦和駅周辺地区小・中学校の現状



内谷中学校
～ 部活動の様子 ～



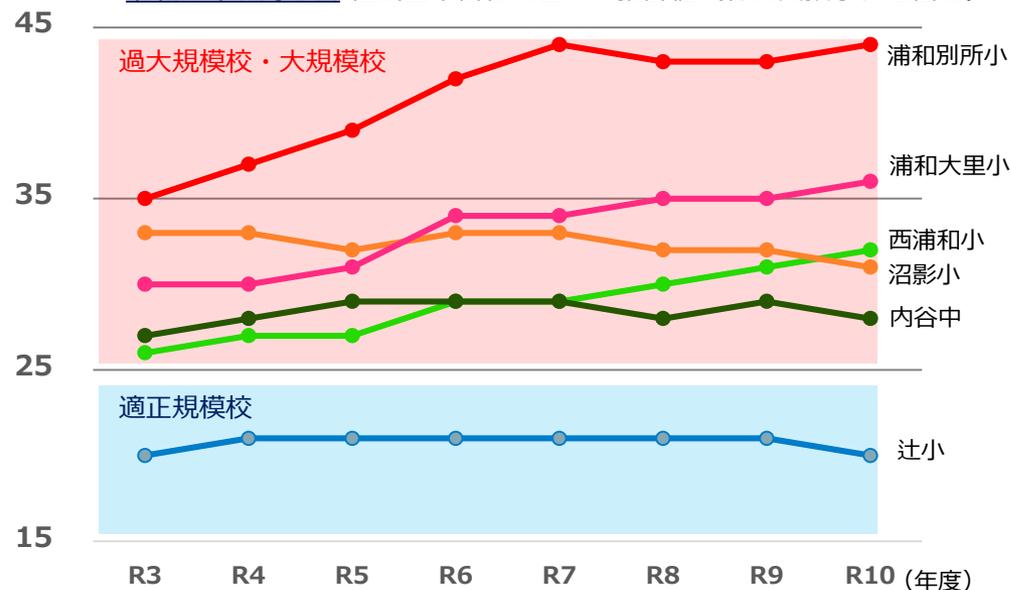


2. 武蔵浦和の学校事情 「武蔵浦和駅周辺地区が抱える課題について」

(2) 武蔵浦和駅周辺地区小・中学校の学級数の推計

～学級数の推計～

(学級) ※ 令和4年5月1日 住民基本台帳に基づく推計値 (特別支援学級を含む)



～1人あたり校庭面積の推計～

	令和3年度		令和10年度	
	1人あたり校庭面積	市平均との比較	1人あたり校庭面積	市平均との比較
小学校 市平均	16.6㎡	100%	18.6㎡	100%
浦和別所小	4.5㎡	27%	4.0㎡	22%
沼影小	7.6㎡	46%	9.3㎡	50%
浦和大里小	10.0㎡	61%	8.7㎡	47%
西浦和小	6.9㎡	42%	6.4㎡	34%
辻小	14.4㎡	87%	15.4㎡	83%
中学校 市平均	29.7㎡	100%	32.5㎡	100%
内谷中	8.1㎡	27%	8.0㎡	25%
白幡中	10.0㎡	34%	7.7㎡	24%
南浦和中	15.4㎡	52%	14.3㎡	44%
田島中	21.7㎡	73%	24.9㎡	77%



- この地区に小学校1校の設置が必要となる規模の増加
- 将来的には中学校1校の設置も必要となる見込み

● 今後も過密状態は解消されず、学級数の増加が見込まれている
 ● さらなる1人あたり校庭面積の減少が見込まれるため、仮設校舎・増築校舎の建設は不可能

2. 武蔵浦和の学校事情 「武蔵浦和駅周辺地区が抱える課題について」

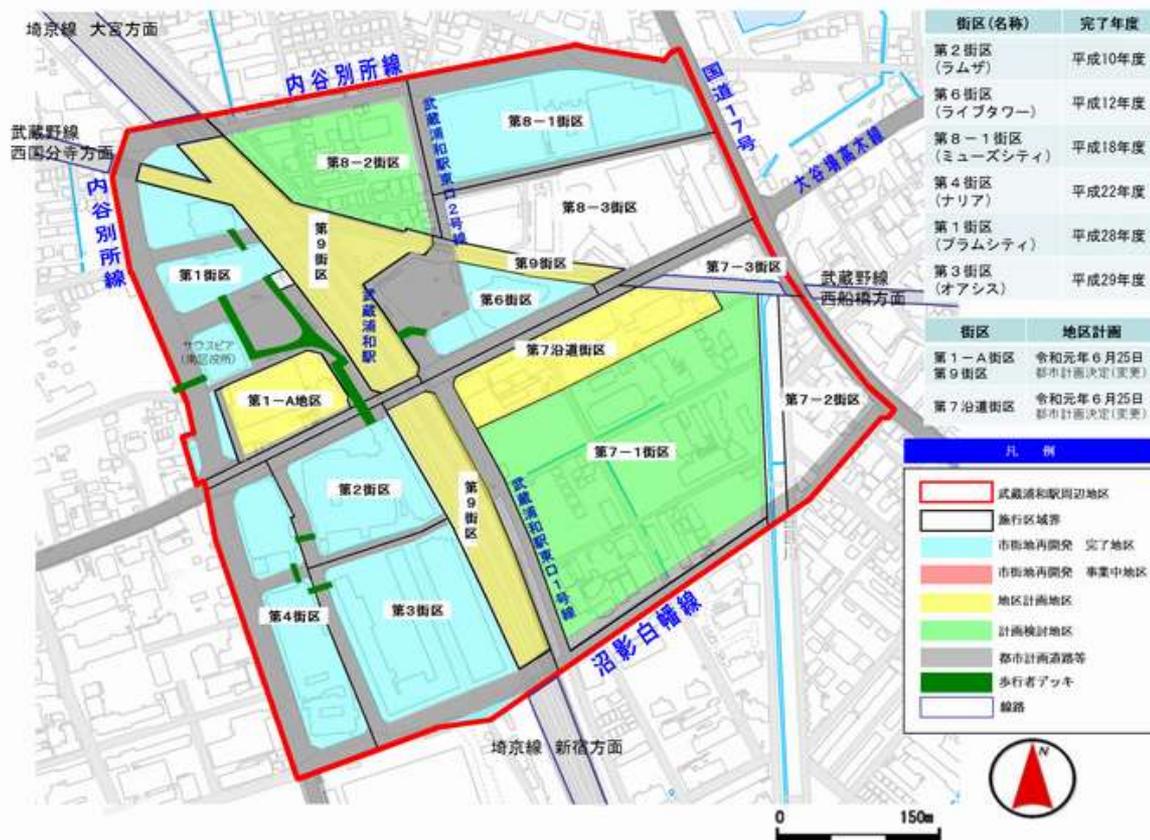
(3) 武蔵浦和駅周辺地区の開発状況

～市立小中学校の平均敷地面積～

校種	敷地面積 (平均)
小学校	約1.7ha
中学校	約2.3ha
計	約4.0ha

令和4年度の数値

武蔵浦和駅周辺地区



さいたま市Webページ
「武蔵浦和駅周辺地区事業概要」より



- 再開発の進む武蔵浦和駅周辺地区では、用地取得が困難
- 市有地の活用の方向性で調査・検討を行った



3. 未来の武蔵浦和の子どもたちの教育

「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の設置について」

(1) 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校設置の目的

義務教育9年間を一貫した
教育活動による
子どもたちの学びの充実



武蔵浦和駅周辺地区
小・中学校における
学校規模による
課題の解消



武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の設置

【設置による効果】

- ・ 9年間一貫した教育のメリットを最大化し、発達段階に応じたきめ細かな指導を実現
- ・ 6 - 3制にとらわれない自由な学年編制による柔軟な教育を実現
- ・ 浦和大里小学校、沼影小学校、内谷中学校、沼影公園の敷地を一体的に活用することにより学校用地を拡大し、ゆとりある空間の中で教育活動を展開
- ・ 新たな通学区域の設定等により、地区一体的な学校規模の不均衡の解消を実現
- ・ 義務教育学校における実践の普及による、市全体の教育水準の向上



義務教育学校の設置により、
教育の質の向上・質的転換に加え、持続可能な教育環境を実現！



3. 未来の武蔵浦和の子どもたちの教育

「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の設置について」

(2) 学園構想について



【浦和大里小学校】



【内谷中学校】

3つの校舎からなる
学園構想



【沼影公園】

＜新設校舎の建設＞



【沼影小学校】

義務1~4年:	約800人×2校舎
義務5~9年:	約2,000人×1校舎



- 既存校舎の有効活用 ※ 内谷中は小学校仕様に改修
- 必要最小限の学区変更
- 人口減少局面を見据え、柔軟な施設構成が可能

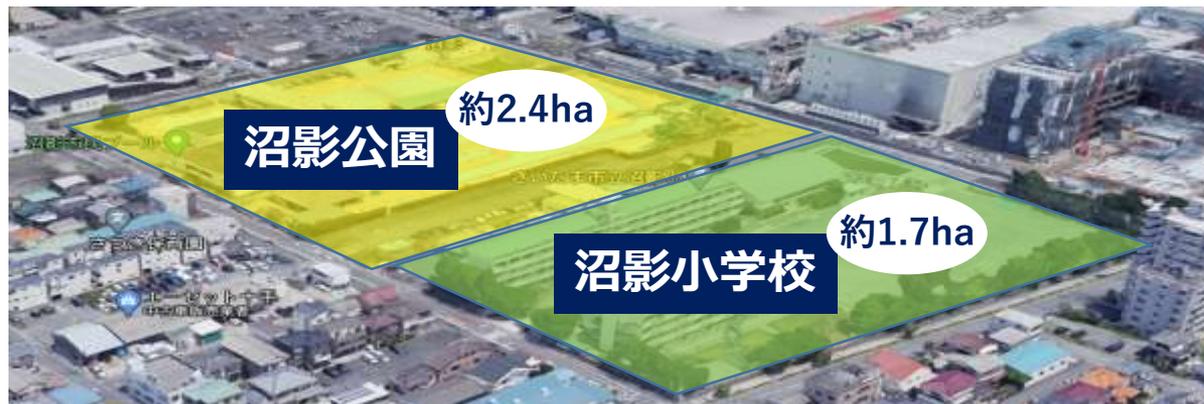


3. 未来の武蔵浦和の子どもたちの教育

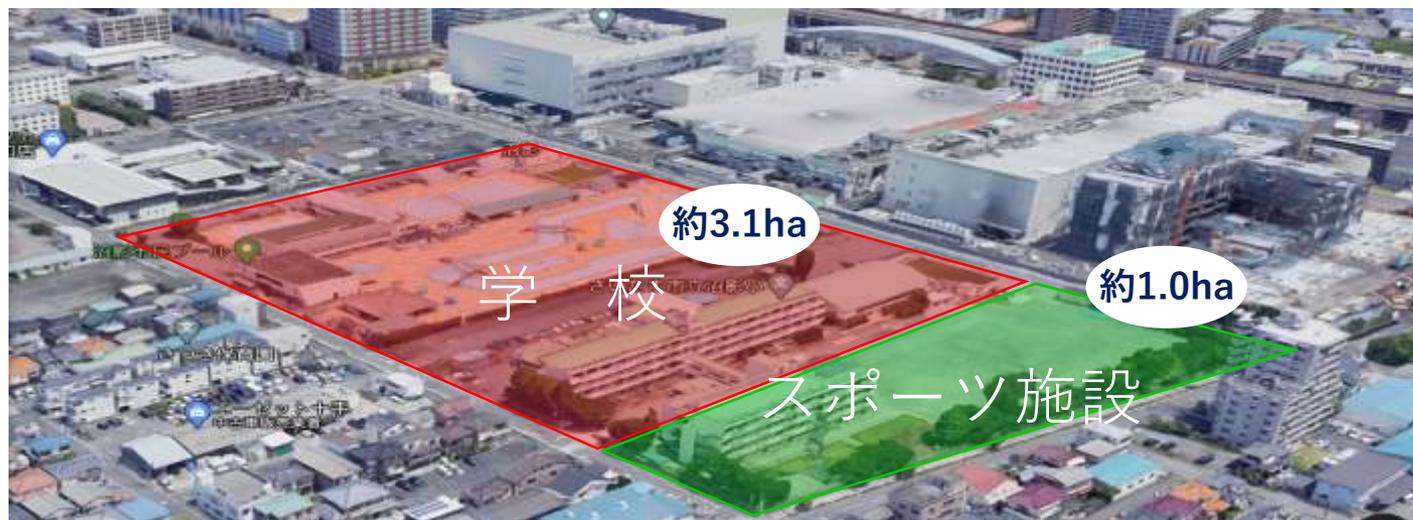
「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の設置について」

● 沼影新設校舎の設置イメージ

【現況】



【計画】





3. 未来の武蔵浦和の子どもたちの教育

「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の設置について」

(3) 学園の概要



- ユニットとは700名~800名の児童生徒で構成した学年を縦割りにしたグループ
- 学園全体を5つのユニットで構成し、理想的な規模で教育活動を展開
- 学園全体に校長1名、ユニットごとに副校長1名、教頭1名を配置し、きめ細かな効率的・効果的な学校運営が行われる体制を研究

【適正な規模での教育活動】

各ユニットが800名程度となることで、適正な規模での教育活動を実現！

【交流活動の活性化】

ユニット内の縦の交流、ユニット間の横の交流など、多様性に富んだ交流活動を実現！



きめ細かで効果的な指導を実現する
ユニット制を導入したアットホームな学園

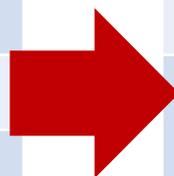


3. 未来の武蔵浦和の子どもたちの教育

「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の設置について」

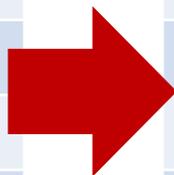
● 学校規模の不均衡の解消

令和10年度	学級数 (通常学級のみ)	各学年の 学級数
浦和大里小	33学級	5～6学級
内谷中	25学級	8～9学級
沼影小	28学級	4～5学級



令和10年度		学級数 (通常学級のみ)	各学年の 学級数
浦和大里校舎	ユニット1	24学級	6学級
内谷校舎	ユニット2	24学級	6学級
沼影校舎	ユニット3	19学級	3～5学級
	ユニット4	19学級	3～5学級
	ユニット5	19学級	3～5学級

令和10年度	学級数 (通常学級のみ)	各学年の 学級数
浦和別所小	40学級	6～7学級
西浦和小	29学級	4～5学級
辻小	18学級	3学級
白幡中	24学級	8学級
南浦和中	19学級	6～7学級
田島中	18学級	6学級



令和10年度	学級数 (通常学級のみ)	各学年の 学級数
浦和別所小	31学級	5～6学級
西浦和小	29学級	4～5学級
辻小	18学級	3学級
白幡中	21学級	7学級
南浦和中	21学級	7学級
田島中	21学級	7学級



- 義務教育学校の各ユニットは、理想的な規模での教育活動が展開可能に
- 義務教育学校の設置に伴う通学区域の変更により、周辺校についても改善される

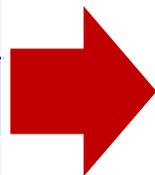


4. 現時点の学区案・運用 「通学区域について」

(2) 通学区域（案）について

現在

	小学校	中学校
A1	沼影小	内谷中
A2		内谷中
B1	浦和大里小	内谷中・白幡中
B2		白幡中
C1	浦和別所小	白幡中
C2		内谷中
C3		内谷中
D1	西浦和小	田島中
D2		内谷中・田島中
E1	辻小	南浦和中
E2		内谷中・南浦和中



開校後

	義務教1～4年生	義務教5～9年生	
A1 A2 C3	内谷校舎 (現 内谷中)	沼影新設校舎	
B1 B2			大里校舎 (現 浦和大里小)
	小1～6年		中1～3年
C1 C2	浦和別所小		白幡中
D1 D2	西浦和小	田島中	
E1 E2	辻小	南浦和中	



4. 現時点の学区案・運用「通学区域について」

(3) 開校時の配慮事項について

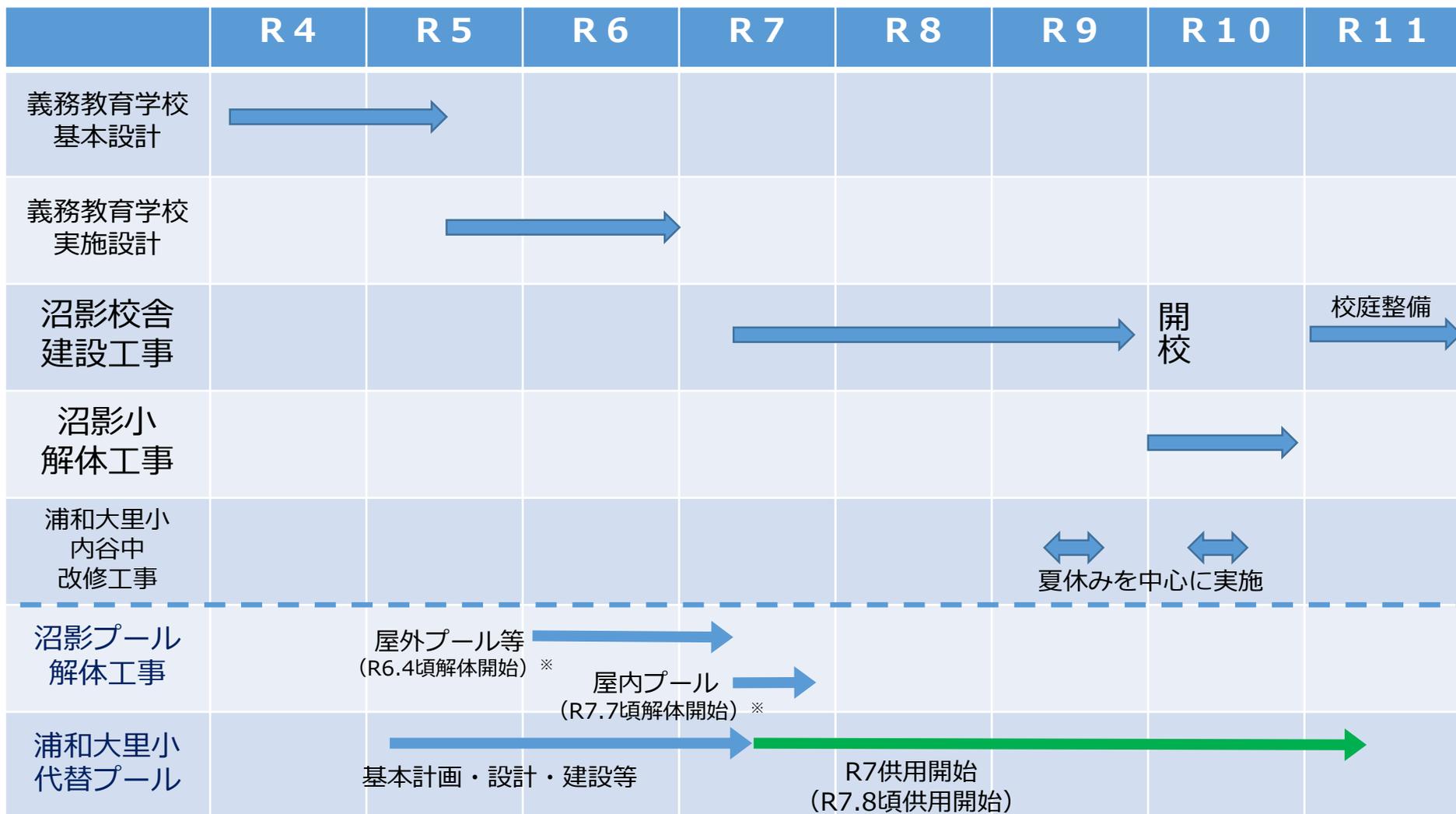
令和10年度に通学区域が変更となる次のエリアについては、原則、新しい通学区域に基づく指定校への転校になるが、希望により、令和9年度の在籍校へ継続的に通学することも可能とする。

	令和9年度 在籍校	令和10年度就学可能校	
		①指定校	②選択可能校
B1・B2	白幡中	義務教育学校	白幡中
C2	内谷中	白幡中	義務教育学校
C3	浦和別所小	義務教育学校	浦和別所小
D2	内谷中	田島中	義務教育学校
E2	内谷中	南浦和中	義務教育学校



5. 新しい学び舎の開校に向けて！ 「整備スケジュールと代替プールについて」

(1) 開校までの工程について



※ 解体工事の工期および供用開始の時期については、不測の事態が生じた場合、変更となる場合があります。 20

5. 新しい学び舎の開校へ向けて！ 「整備スケジュールと代替プールについて」

(2) 沼影公園屋内プールの代替について

【課題】・沼影公園屋内プールの解体工事着手から、新たなスポーツ施設の供用開始までの **7年間**、屋内プールの利用ができなくなる。

- 【対応】
- ・浦和大里小学校敷地内に温水プールを新たに建設し、新たなスポーツ施設の供用開始までの期間、代替プールとして、学校プールと兼用する。
 - ・学校の水泳授業以外の時間帯に市民利用を可能にする。
 - ・利用者の方々の要望に応えるため、利用できない期間が **1か月程度**まで短くなるよう検討を続けている。

(浦和大里小温水プール整備及び沼影公園屋内プール解体スケジュールの見直し等を行っている。)

○代替プールの基本スペック等 (想定)

【施設】

- ・25mの屋内温水プール (コース数未定)
- ・可動床により、学校利用時とそれ以外で水深設定を変更可能
- ・平屋建てを想定 (延べ床面積800㎡程度)

【利用料金】

- ・現在の沼影公園屋内プールと同水準となるよう検討

【利用時間】

- ・学校の水泳授業を除く時間帯で、時期や曜日については同等の利用が確保できるよう検討

【位置 (右案内図参照)】

- ・沼影公園屋内プールからの距離は約600m
- ・駐車場は近隣のコインパーキングを利用





6. 沼影校舎が目指す方向性（イメージ）

「新しい施設及び展開される教育活動について」

（1）沼影新設校舎（イメージ）について

＜壁の無いオープンな教室＞



出典：「令和4年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会
『新しい時代の創造的な学習空間づくり－多様な学習形態へ対応した空間
創出・ICT（日本と韓国の学校建築）－』報告書」（国立教育政策研究所）



群馬県みどり市みどり市笠懸西小学校 出典（株）内田洋行HP導入事例より

＜連続する教室を一体的につなげ、 多様な活動を支える空間に＞



6. 沼影校舎が目指す方向性（イメージ）

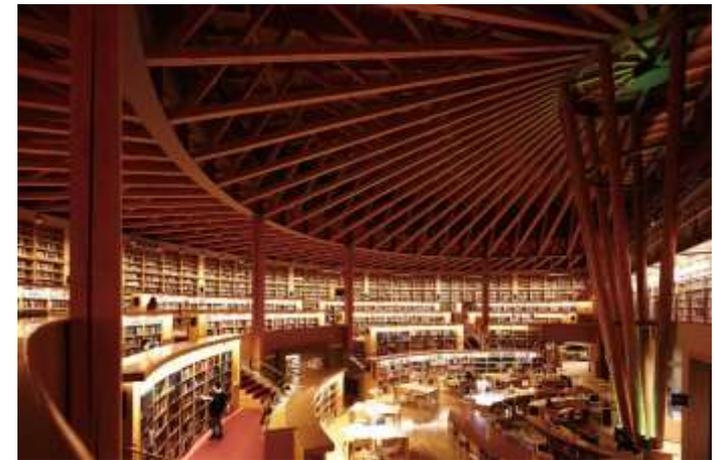
「新しい施設及び展開される教育活動について」

（1）沼影新設校舎（イメージ）について

〈学びの中心となるラーニング・コモンズ〉



写真提供 国際教養大学



写真提供 国際教養大学



6. 沼影校舎が目指す方向性（イメージ）

「新しい施設及び展開される教育活動について」

（1）沼影新設校舎（イメージ）について

〈学ぶワクワクをはぐくむアトリエやスタジオ〉



出典：「令和2年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会

『小中一貫教育校の学校建築（教育者と建築家の対話の促進）－海外と日本の事例から－』報告書」（国立教育政策研究所）を一部加工

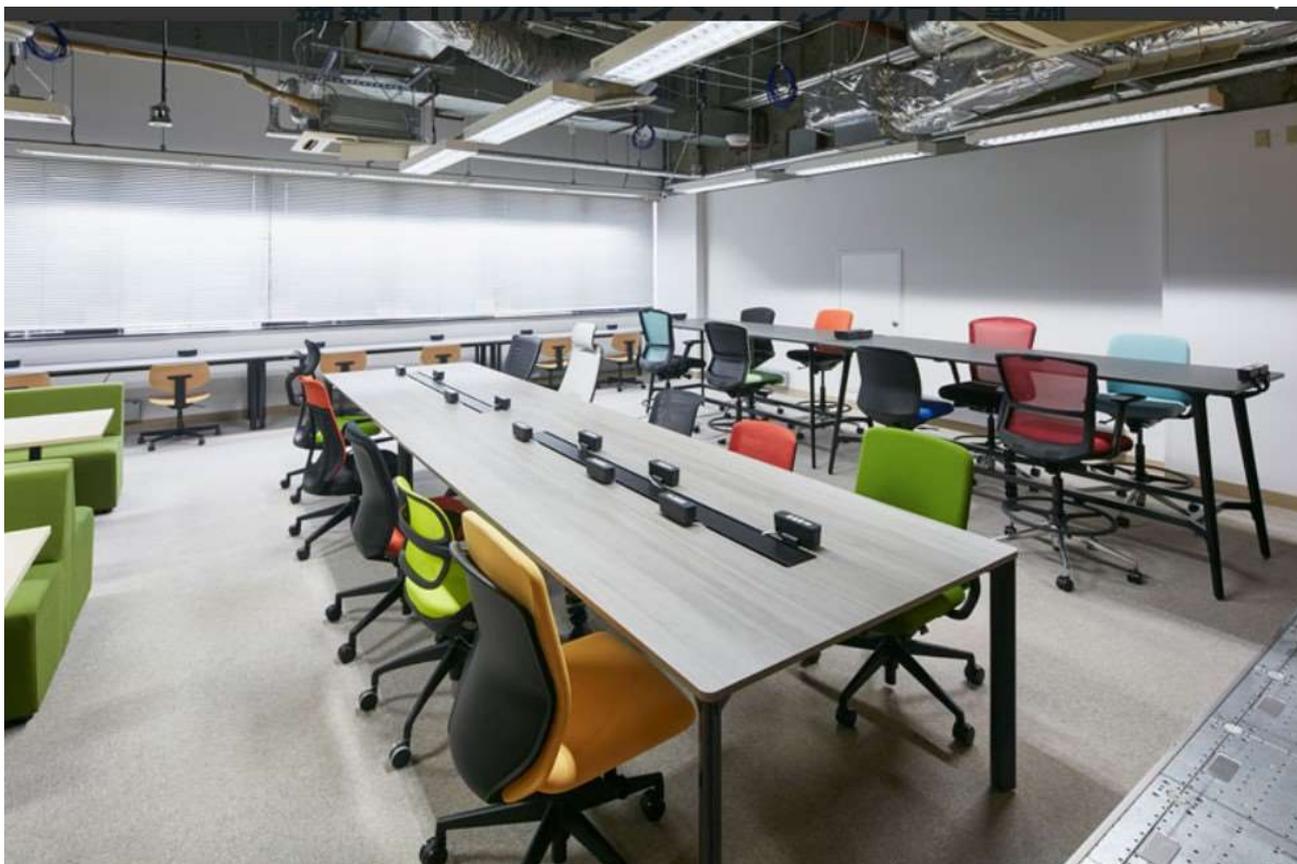


6. 沼影校舎が目指す方向性（イメージ）

「新しい施設及び展開される教育活動について」

（1）沼影新設校舎（イメージ）について

＜入りやすく気軽に相談できる職員室＞



北海道新聞 SAPPORO Incubation Hub DRIVE 出典（株）内田洋行HP導入事例より

出典：「令和3年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会 『新しい時代の創造的な学習空間づくりー海外と日本の事例からー』 報告書」（国立教育政策研究所）を一部加工



6. 沼影校舎が目指す方向性（イメージ）

「新しい施設及び展開される教育活動について」

（2）地域交流、施設開放の充実について（イメージ）

〈学園の一体化と地域連携を促す「学園モール」を整備〉



地域イベントの開催など
「地域と学校の交流拠点」



文教大学東京あだちキャンパス 出典（株）内田洋行HP導入事例より

提供：さいたま市立美園南中学校



6. 沼影校舎が目指す方向性（イメージ）

「新しい施設及び展開される教育活動について」

（2）地域交流、施設開放の充実について（イメージ）

＜人工芝グラウンドと大規模アリーナ、特別教室を積極的に地域開放＞



提供：（公社）さいたま観光国際協会



提供：さいたま市立浦和南高等学校



出典：「令和3年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会
『新しい時代の創造的な学習空間づくりー海外と日本の事例からー』報告書」（国立教育政策研究所）を一部加工



6. 沼影校舎が目指す方向性（イメージ）

「新しい施設及び展開される教育活動について」

（3）避難所機能の充実について

<様々な人が安全に、快適に使用できる施設>

- 段差の解消やエレベーターの設置など、要支援者や高齢者もスムーズに移動が可能となるように、ユニバーサルデザインへの配慮
- 避難生活時にも多人数で使用できる、学園モールの設置

<大規模災害時に備えたインフラ自立性の確保>

- 電源確保のための太陽光発電、蓄電池の導入を検討
- 飲料水、生活用水を確保するための防災備蓄倉庫の設置

<避難生活を支える居住性の確保>

- シャワーの稼働など、公衆衛生の管理
- 通常の学校体育館よりも広く、停電時にも使用できる空調が整備された体育館